

研究発表もうしこみフォーム

氏名：金来

氏名のローマ字表記：Jinlai

所属：東北大学大学院環境科学研究科

専門分野：モンゴル史

発表のタイトル：清中期モンゴルにおける石炭資源の採掘—アラシャ旗内での石炭の採掘を事例として—

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表では、清中期アラシャ旗内で発生した石炭採掘案件処理の経緯を検討することを通じて、資源利用に対する清朝とモンゴル旗当局の態度の特徴を論じる。

アラシャ地域は、豊富で良質な石炭資源を産出することで知られ、すでに清代中期には石炭の採掘が盛んに行われていた。このため、アラシャ旗檔案館には、採掘に伴い発生した問題処理に関わる多数の檔案が残されており、寧夏理事司員やアラシャ旗当局による石炭採掘に対する対応を知ることができる。本発表では、近刊の『阿拉善和碩特旗蒙古文歴史档案』と『清代阿拉善和碩特旗蒙古文档案選編』所収の檔案史料を用いて、ウラーンモド、トーロイト、チャガーン・チョロート、チャガーン・ハダなどで乾隆から道光年間に発生した石炭の採掘事案に対する清朝および旗当局の対応、取り締まりの経緯を分析する。そこから、東側と南側で甘肅の寧夏府、涼州府、甘州府などと隣接していたアラシャ旗での石炭の採掘には、しばしば民人が関わっていたこと、アラシャ旗当局や同旗のモンゴル旗民が、石炭採掘に民人を用いたことから民人との間で紛争が発生していたこと、アラシャ旗や寧夏理事司員など清朝の駐防官との連携の悪さから、進入する民人に対する管理が徹底しなかったこと、清朝のモンゴルでの石炭資源採掘への対応が、アラシャ旗への民人の越境進入に伴い発生するトラブルに対する措置としてなされており、資源政策としての一貫性を欠いていたことなどを論じる。